

恒久平和に貢献する万国津梁会議 提言の骨子（案）

【はじめに】

（以下の箇条書きの要素を最終的には文としてまとめる。）

- 平和な状態でない 2025 年の国際情勢と今後の展望
- 紛争が及ぼす多方面の影響
- 戦争・紛争抑止のための沖縄県の特徴を活かした貢献
- 核廃絶の動向と沖縄県としての関与
- 文化の相互理解と多様で重層的なネットワークの強化
- 国際協力による平和への貢献と地域に与える負の側面
- 市民・地域の繋がりを重視した取組と環境整備
- 戦争・紛争が起こる要素を摘み取る側面からの S D G s 推進
- 県民生活への「人間の安全保障」の概念を取り込むことの重要性
- 持続可能な社会基盤の構築

第 1 章 沖縄が恒久平和に貢献する意義

(以下の箇条書きの要素を最終的には文としてまとめる。)

- ・戦後 80 年が経過する中で、沖縄戦の実相と教訓を継承する必要性が高まっている。
- ・世界では、戦争・紛争の緊張が高まっている。
- ・悲惨な沖縄戦を経験した沖縄県民は、恒久平和を強く希求している。
- ・戦後 90 年、100 年を見据え、沖縄が恒久平和に貢献するための将来像を示す必要

第 2 章 本会議における「平和」の捉え方

- ・一般的に、「平和」としてイメージされるのは、戦争や紛争がない状態（以下「狭義の平和」という。）と捉えられる。
 - ・また、戦争・紛争に至る要素を早期に除去するためには、貧困、暴力、人権の抑圧、差別、環境破壊等がない安らかで豊かな状態（以下「広義の平和」という。）を維持する必要がある。
 - ・恒久平和への貢献を考えたとき、広義の平和は重要な要素であり、特に人間の安全保障の確立、SDGs 推進、多文化共生社会の構築など、戦争・紛争に関連する項目は継続的に取り組む必要がある。
 - ・沖縄県が発信する平和を希求する「沖縄のこころ」には、戦争や紛争がない状態にとどまらず、人間の尊厳を何よりも重く見る「人間の安全保障」の視点も含まれる。
 - ・以上を踏まえ、次のとおり恒久平和に貢献するための将来像を大きく二つの将来像にまとめる。
- 沖縄が平和に貢献するため、目指すべき一つ目の将来像として「戦争・紛争がない社会構築への貢献」とする。
- ・沖縄県は、国家間の外交権や防衛力を有しない地方自治体であるが、県民とともに積極的に国際平和の貢献に取り組む。
 - ・平和教育などによる平和意識の醸成、国内外のネットワーク構築、平和発信、対話と外交努力による平和的な解決の促進など

➤二つ目の目指すべき将来像として「人間の安全保障への貢献」とする。

- ・「平和」とは、戦争や紛争がない状態にとどまらず、貧困、暴力、人権の抑圧、差別、環境破壊等がない安らかで豊かな状態
- ・これらの課題が拡大すると、対立、紛争、武力行使につながる。
- ・国内外における戦争・紛争につながる要素を早期に除去する重要性
- ・人間の尊厳を何よりも重く見る「人間の安全保障」の確保、SDGsの推進による誰一人取り残すことのない社会の構築など

- ・沖縄戦から 80 年が経過する中で、人間の尊厳を何よりも重くみて、戦争につながる一切の行為を否定し、平和を求め、人間性の発露である文化をこよなく愛する心である、平和を希求する「沖縄のこころ」を継承していく。

第 3 章 恒久平和に貢献するための将来像の趣旨

A 戦争・紛争がない社会構築への貢献（狭義の平和への貢献）

（戦争や紛争を回避するために沖縄県が貢献できることを記載する。）

- ・平和意識の醸成（次世代継承、平和教育の充実、平和啓発）
- ・国内外における多様で重層的なネットワーク構築（ネットワーク構築）
- ・平和的な対話と外交努力による場の提供等（多角的な地域間協力・地域外交）

B 「人間の安全保障」への貢献（広義の平和への貢献）

（「人間の安全保障」を確立することで、戦争・紛争に至る要素を早期に除去する。）

- ・持続可能な経済、社会、環境、ガバナンスの構築（SDGsの推進）
- ・人権、多様性を認める社会の構築（多文化共生社会）
- ・バランスのとれた社会インフラの整備
- ・気候変動問題など環境保全

第 4 章 将来像の実現に向けた基本的な方策

(具体的な取組を記載する。)

A 戦争・紛争がない社会構築への貢献

短期的な施策（おおむね 3 年から 5 年程度）

1 平和意識の醸成（次世代継承・平和教育の充実・平和啓発等）

(1) 平和ガイド育成、活躍の場の創出

- ・活躍の場を創出することで、次世代継承を推進

(2) 小中高校における平和学習の充実

- ・平和学習の担当教員の習熟度向上、カリキュラム整備、平和学習教材の必要性等

(3) 平和継承における地域、学校、平和博物館との連携

- ・あらゆる主体が連携して平和継承に取り組む必要性

(4) 若者を中心としたイニシアティブの推進、政策提言、参画

- ・高校生平和大使
- ・若者政策会議
- ・次世代リーダー育成「ユース・ピース・アンバサダー」
- ・基地問題をテーマとした若者の国際的な意見発信
- ・若者政策アドバイザリーボード
- ・沖縄SDGsリーダー育成プログラム
- ・デジタルツールを活用した教育の革新等

2 ネットワーク構築

(1) 国際的な都市間ネットワーク

- ・グローバル平和都市連帯（韓国済州自治道、フランスのベルダン市、ドイツのオスナブリュック市、沖縄県の連携）

(2) 世界の県系人（ウチナーンチュ）による多様で重層的なネットワーク

- ・世界中に約 42 万人といわれるウチナーンチュを活かした交流の継続

(3) 行政とNGOなど市民団体との連携

- ・行政とNGOなど各種市民団体による連携など

3 平和発信

(1) 世界から見た沖縄の状況を踏まえた平和発信

- ・悲惨な沖縄戦を経験し、広大な基地を有する沖縄からの平和発信

中期的な施策（おおむね 10 年程度）

1 平和意識の醸成（次世代継承・平和教育の充実・平和啓発等）

(1) 沖縄戦と基地問題の若者への継承

- ・沖縄戦と基地問題は密接に関連しており、次の世代へ継承する必要性

2 ネットワーク構築

(1) 平和博物館の利活用による若者の交流

- ・若者が各地域の平和博物館で共同研修することによる相互理解

(2) 共同生活・交流による多様な文化の相互理解

- ・隣人たちとの共生関係を築くことによる多文化の相互理解

(3) 国連など国際機関との連携

- ・沖縄県だけでは実現不可能な政策目標達成に向けた環境整備

3 平和発信

長期的な施策（おおむね 20 年程度）

1 平和意識の醸成（次世代継承・平和教育の充実・平和啓発等）

(1) 戦跡の保存・公開

- ・戦跡の保存・公開をとおして、平和教育等に活用する。

2 ネットワーク構築

(1) 国連など国際機関との連携（再掲）

- ・沖縄県だけでは実現不可能な政策目標達成に向けた環境整備

3 平和発信

B 「人間の安全保障」への貢献

長期的な施策（おおむね 20 年程度） ※現在進めており、長期的な継続必要

(1) S D G s の推進

- ・誰一人取り残さない、持続可能な社会構築に向けた取り組み。

(2) 多文化理解・共生による学習環境の整備

- ・外国にルーツを持つ子どもなど、様々な背景を持つ子どもが学習できる環境整備

(3) 安全に安心して豊かに暮らせる社会の実現

- ・災害対応、バランスの取れた社会インフラ整備
- ・気候変動問題など環境保全

第 5 章 将来像実現に向けた推進体制

- ・行政（県・市町村）、民間団体・研究機関の連携

- ・県の組織体制等

(参考) 将来像の実現に向けた基本的な方策 行程表

	短期的な施策	中期的な施策	長期的な施策
	策定から3年から5年	策定から概ね10年	策定から概ね20年
	戦後85年	戦後90年	戦後100年
A 戦争・紛争がない社会構築への貢献	1 平和意識の醸成 (1) 平和ガイド育成・活躍の場創出 (2) 小中高校における平和学習の充実 (3) 地域、学校、平和博物館の連携 (4) 若者を中心としたイニシアティブ	1 平和意識の醸成 (1) 沖縄戦と基地問題の継承	1 平和意識の醸成 (1) 戦跡の保存・公開
	2 ネットワーク構築 (1) 国際的な都市間ネットワーク (2) 世界の県系人によるネットワーク活用 (3) 行政とNGOなど市民団体との連携	2 ネットワーク構築 (1) 平和博物館の利活用による若者交流 (2) 共同生活・交流による文化の相互理解 (3) 国連など国際機関との連携	2 ネットワーク構築 (1) 国連など国際機関との連携（再掲）
	3 平和発信 (1) 世界から見た沖縄の状況を踏まえた平和発信	3 平和発信	3 平和発信
B 「人間の安全保障」への貢献	1 SDGsの推進		
	2 多文化理解・共生による学習環境整備		
	3 安全に安心して豊かに暮らせる社会構築 (1) 災害対応、バランスのとれた社会インフラ (2) 気候変動問題など環境整備		